

令和4年度剣道中央講習会指導法

I. 指導法の重点事項

「剣道の理念」をより深く認識し、高い水準の剣道を目指すために「指導法講習における[重点事項]」を踏まえた指導法の普及を図る。(剣道講習会資料 p9)

II. 指導の内容

1. 講話(剣道指導要領 参照)

- (1) 剣道の理念、剣道修練の心構え、剣道指導の心構え 等の講話を通して剣道実践者としての姿勢態度を養う。(剣道指導要領p5)
- (2) 剣道史などの講話によって、剣道への興味や意欲を高める。(剣道指導要領 pp.1~4)
- (3) 剣道指導の在り方について (剣道指導要領 pp.6~10)
 - 1) 指導者 2) 指導のねらい 3) 指導の展開 4) 技術の修習と稽古に対する指導
 - 5) 指導上の留意点

2. 実技 I

講習会等では、できるだけ[日本剣道形 → 木刀による剣道基本技稽古法 → 竹刀稽古法]の「→」の順序で教習を行うことが望ましい。

[要約]

(1) 日本剣道形 … 竹刀稽古法の原点

1) ねらい

① 剣(日本刀)の観念で「刀法の原理」「攻防の理合」「作法の規範」を修得させる。

2) 指導事項

① 立会前後の作法、立会の所作、刀の取り扱い。

② 「打ツハ切ルノ意ナリ」(打つということは、切るという意味である)

③ 刃筋、手の内、鎧の使い方、一拍子の打突、間合、機、勝機、目付け、呼吸法、残心、気迫
(剣道講習会資料p91の「日本剣道形講習における重点事項」を参照)

(2) 木刀による剣道基本技稽古法 … 日本剣道形と竹刀稽古法の中継ぎ

1) ねらい

① 木刀を使用して、「刀法の原理・理合」「作法の規範」を理解させる。

② 木刀を使用して、竹刀稽古法の基本技術と対人的技能を正しく体得させる。

2) 指導事項

- ①打突は、常に打突部位の寸前で止める空間打突となるが、刀で「切る、突く」という意味を理解させる。
- ②構え、目付け、間合（一足一刀の間合）、打突（刃筋、物打、一拍子）、足さばき（すり足）、掛け声（発声）、残心（中段の構え）

（剣道講習会資料p71-72「指導上の留意事項」を参照）

(3) 竹刀稽古法 … 剣の理法の修練に基づく気剣体一致の“見事な一本”の追求

1) ねらい

- ①竹刀を使用して、剣道具を装着している打突部位へ実際に打突する気剣体一致の“見事な一本”を追求させる。

2) 指導事項

- ①剣道具を装着して「木刀による剣道基本技稽古法」を竹刀剣道に発展させる指導。習熟段階を考慮して、構成された技に関連する内容も取り入れた指導を展開する。
（例 基本2-連続技：小手一面、小手一胴、小手一面一胴
基本6-すり上げ技：小手すり上げ面、面すり上げ面 など）
- ②“見事な一本”を実打する。
- ③呼吸法、気合、打突部位、打突部、刃筋、強度と冴え、体勢（姿と勢い）、構え、体さばき、正しい手の内、鎧を意識した竹刀の操作、一足一刀の間合、一拍子の打突、正しい攻防（氣勢、中心を外さない攻め合い、左拳を中心線から外さない）、正しい鍔ぜり合い、目付け、打突の機会（虚実、拍子）（剣道講習会資料p8の「指導法講習における基本的事項」ならびに同p9の「指導法講習における重点事項」を参照）

実技2

(1) 指導内容I

1) 剣道着・袴および剣道具（剣道試合・審判規則第4,5条 同細則第3条）

- ①剣道着と袴の着装法と留意点
- ②剣道具：面・胴・小手・垂の着装法と留意点
- ③剣道具の外し方、結束法と留意点、剣道着と袴のたたみ方

（剣道指導要領pp.11~23）

2) 竹刀（竹刀の構造と各部の名称、竹刀の基準、規格等、竹刀の安全確認）

（剣道試合・審判規則第3条 同細則第2条）

- ①竹刀
 - ②日本刀・木刀
 - ③竹刀・小手・面の持ち方と置き方、手拭いの置き方（剣道指導要領pp.24~29）
- #### 3) 礼法（立礼、座礼、正座、座り方・立ち方）（剣道指導要領pp.30~35）
- ①稽古前後の礼法の指導を徹底するとともに、激しい攻防のなかでの礼についての指導。（礼に始まり、礼をもって行い、礼で終わる精神の啓蒙を図る）